



おとひめ

令和8年5月22日(金)



「環境が人を育てる」と言われますが

山口小学校長 吉村 康介

先月の授業参観、PTA 総会、学級懇談会には、多くの皆様にご参加いただき、誠にありがとうございました。PTA 総会の中では、次のようなエピソードを紹介いたしました。

私は毎朝、決まった時間に児童玄関を開け、登校してきた子どもたち一人一人に、「おはようございます」と声をかけながらハイタッチをして迎えることを日課としています。

ある朝、いつものように子どもたちを迎えながら、その場にいた児童会副委員長の可知芽久さんに、「みんな元気にハイタッチしてくれるし、あいさつ運動のときには大きな声が出ているんだけど、児童玄関をくぐるときの『おはようございます』の声は、なんだか小さいんだよ…」と、何気なくつぶやきました。

次の日のことです。私はいつも通りに児童玄関で子どもたちを迎えていました。すると、6年生の何人かが私の横に並び始めました。そして、私と一緒に「おはようございます」と声をかけ、ハイタッチをしながら仲間を迎え始めたのです。理由を尋ねると、「校長先生の話聞いて、みんなのあいさつの様子を見に来ました」と教えてくれました。きっと、私のつぶやきを芽久さんが6年生の仲間に伝えたのでしょう。そして、その話を聞いた6年生の仲間たちは、「よりよい学校にするために、自分たちが行動しよう」と考えたのだと思います。誰かに指示されたわけではありません。最上級生として今の学校の課題について考え、自分たちにできることを見つけて、自ら動き始めたのです。

その後の様子ですが、6年生の児童は今でも登校してくると児童玄関に立ち、さわやかな「おはよう」の声とハイタッチで仲間を迎えています。

このように頼もしい6年生も、ついこの間までは上級生にリードしてもらう立場でした。それが今では、行動にも表情にも、最上級生としての自覚と貫禄が感じられるようになっていきます。よく「環境が人を育てる」と言われますが、まさに今、6年生は自分たちが置かれた環境の中で、全校のリーダーとして育ち始めています。そして、その姿を見て、下級生もまた育っていくのだと感じています。



朝の児童玄関



1年生に掃除の仕方を教える6年生